

# 文化財(文化的景観)

## 八街市南部の防風保安林と落花ぼっち

明治時代以来、江戸時代の牧であった原野を開墾するために八街の地に入植した人々は、強風から家・畑を守るため、屋敷林や防風保安林を設けました。

防風保安林に守られた畑では、おもに落花生が栽培され、収穫時期の9月頃から11月頃にかけては、掘り起こした落花生を円筒状に積み上げて藁の笠をかぶせる「落花ぼっち」が各所に並び、市域特有の景観が広がります。

この景観は、千葉県教育委員会による『県民が選ぶ！「ちば文化的景観」』の一つとして選定されています。

